

1 一覧

教育目標		
地域の未来を切り拓く、心豊かな児童の育成		
保護者の願い	児童の実態	教師の願い
○ 分かりやすい授業をしてほしい。 ○ 一人一人に応じた細やかな学習指導をしてほしい。 ○ 進んで家庭学習に取り組めるようになってほしい。 ○ もっと読書に取り組んでほしい。	○ 学習意欲の高い児童が多い。 ○ 家庭学習の取り組みは受身であるが、まじめに取り組む子が多い。 ● 活用問題への対応力が弱い。 ● 学年差、個人差の開きが大きい。 ● 家庭での読書時間が少ない。	○ 知的好奇心を揺さぶる授業展開をしたい。 ○ 習熟の時間の確保し、一人一人に確かな学力を定着させたい。 ○ 活用問題に対応できる力を育みたい。 ○ 家庭学習の質的向上を図りたい。
学力向上の基本方針		
○ 地域社会と連携協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質能力を育む主体的・対話的で深い学び。		

地域・家庭との連携	令和2年度の重点目標	教科・領域等との関連 (次頁関連表)
・「家庭学習スタンダード」を活用した「家庭学習メニュー」「家庭学習カード」に取り組ませ、家庭学習の充実を図る。 ・メディアコントロールデーと読書への啓蒙を図る。	○ 児童一人一人の基礎・基本の確実な定着。 ○ 活用力を育む授業の充実。 ○ 表現力の向上と、伝え合う力の育成。 ○ 家庭学習の質的向上。	

本校の共通理解事項	
指導の重点について	
“主体的に取り組む力”	
1 「授業スタンダード」を生かした授業の質的改善に努める。 ① ぶれない導入と終末の軸 ⇒ 「本時のめあて」と「本時のまとめ」のつながりを明確にする。 ② 個に応じた指導の工夫 ⇒ 学力に応じた活用問題・補充問題を提示する。 ③ 学び合いの充実 ⇒ グループや全体での話し合い活動の場を設ける。 ④ 習熟の時間の確保 ⇒ 学習内容の定着を図る適用問題に取り組む機会と場を設ける。 ⑤ 振り返りの機会の確保 ⇒ 自己評価や相互評価から、満足感や自己肯定感をふくらませる。 2 「家庭学習スタンダード」を生かした学習の習慣化の実現に努める。 ① 家庭学習の進め方の指導 ⇒ 「家庭学習メニュー」を基に家庭での学習の進め方を繰り返し指導する。 ② 保護者との連携を深化 ⇒ 「家庭学習カード」で家庭での学習が充実するように連携を深める。 ③ 読書の習慣化 ⇒ 読むことの楽しさや充実感を味わわせる様々な働きかけをする。 ④ 児童同士の高め合い ⇒ 優れた自学ノートを展示し、参考にできるようにする。 ⑤ キャリア教育の視点 ⇒ なぜ学ぶことが大切かをキャリア教育の視点から指導する。 3 組織的に学力向上に取り組む。 ① 漢字・計算オリンピックの実施 ⇒ 漢字と計算の基礎的学習成果を評価・改善する。 ② 活用力育成シートの実施 ⇒ 活用力の学習成果を評価・改善する。 ③ 個に応じた指導の工夫 ⇒ 実態に応じてT・Tによる指導や取り出し指導を行う。 ④ 帯時間の活用 ⇒ 業間の帯時間を利用して、反復練習に取り組む。 4 学力の実態を把握し効果的な改善策に取り組む。(PDCA サイクル) ① 各種学力検査の実施 ⇒ 県・全国平均との比較から課題を把握し、改善の指導に取り組む。 ② 学習状況調査の実施 ⇒ 各調査から学習意欲等の実態を把握し、改善の指導に取り組む。 5 下郷町四つ葉のクローバープランに取り組む。 ① 小中連携の取り組み ⇒ 下郷町学力向上プラン、「下郷町学びの手引き」の理解と実践に取り組む。	

教科・領域等との関連	
各教科	
○ 教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係を基礎として指導する。	
特別な教科道徳	
○ 各教科・特別活動及び日常生活の中で、豊かな体験活動を通して、道徳的な実践力の向上を図る。	
総合的な学習の時間	
○ 総合的な学習の時間を通して、学んだことを生かす力の育成を図る。	
生徒指導	
○ 日ごろの学級経営の充実を図り、生徒指導の機能を生かした授業の展開に努め自己存在感や成就感を味わわせる。	
教育環境の整備	
○ 言語環境の整備を図る。地域教材の積極的活用に取り組む。読み聞かせなど図書館教育と関連付ける。	

『活用力育成シート』『学力テスト』の活用計画 及び「漢字・計算オリンピック」の実施計画

月	『活用力育成シート』『漢字・計算オリンピック』の活用計画	担 当
4	○ ふくしま学力調査（４～６年） ○ 全国学力・学習状況調査（６学年） ○ 学力テストの分析による学力向上計画の作成（国語科・算数科）	教務，４，５，６年担任 教務，６学年 教務，全学年担任
5	○ 知能検査の実施 ※ 個別に支援を要する児童の「支援カード」「指導計画」の作成 P （前期）・実践 D （～８月）	当該学年 該当学年・担任外
6		
7	◎ 第１回「活用力育成シート」の実施・定着の確認 ◆ 第１回漢字・計算オリンピックの実施・確認	４，５，６学年担任 ２～６年担任
８・９	○ 全国学力・学習状況調査の分析 ※ 個別に支援を要する児童の「支援カード」「指導計画」の評価 C ・改善 A	教務・６学年 該当学年・担任外
１０	※ 個別に支援を要する児童の「支援カード」「指導計画」の作成 P （後期）・実践 D （～２月）	該当学年・担任外
１１	◎ 第２回「活用力育成シート」の実施・定着の確認	４，５，６学年担任
１２	◆ 第２回漢字・計算オリンピックの実施・確認	全学年担任
１		
２	○ 学力調査（NRT）の実施（１～２学年国語 算数 ３～６学年国語 社会 算数 理科） ◎ 第３回「活用力育成シート」の実施・定着の確認 ※ 個別に支援を要する児童の「支援カード」「指導計画」の評価 C ・改善 A （教育課程）	全学年担任 ４，５，６学年担任 該当学年・担任外・教務
３	◆ 第３回漢字・計算オリンピックの実施・確認 ○ NRTの分析・定着の確認（学級・学年・学校全体）	教務・全学年

- 「活用力育成シート」の実施における留意点（４年生以上）
 - ・ 国語科，社会科，算数科，理科の指導計画に位置付け教科の時間に実施する。
（国語３，社会３，算数３，理科３）※社会は５・６年生のみ。
 - ・ 活用力育成シートの結果を県平均と比較・分析し，課題を明らかにして，弱点の補強をする。
- 「漢字・計算オリンピック」の実施における留意点
 - ・ 事前に出題範囲を明らかにし，学習の時間を十分に確保する。基本的な問題を出題する。
 - ・ くり返し問題に取り組ませることで，できるだけ全員が合格できるようにする。尚，合格については学級や児童の実態に配慮するものとする。